

進路指導室だより --- For the Rolling Stones ---

2020年2月4日 八千代高校進路指導部

1, 2年生諸君、最後となった「大学入試センター試験」の動きを参考にしましょう。

(センター試験前)

大学入試センター試験まであと1週間 高大接続改革の変更で「超安全志向」に変化

入試制度の変わり目には「現役志向」が一層強まる傾向がある。今年は、「大学入試センター試験」最後の年。現役志願率も2年続けて減少となった。2021年に始まる「大学入試共通テスト」を前に「超安全志向」があるからだ。

そのため、**国公立第2次試験の出願者は大きく増加しない**とみられる。国立大は、ここ数年一般入試の後期日程の廃止が続き、難関国立大学や医学部を中心に、前期日程の1校受験になりつつある。国立大全体で見ても、後期日程の募集人員は一般入試の2割未満と少ない。さらに、国立大はセンター試験で課される科目が多く受験生の負担が大きい。そのため、センター試験の結果に左右され、平均点が下がれば敬遠されやすい傾向がある。公立大は、大学新設や学部新設により募集人員が増え、多少の増加が見込まれそうだ。

2021年度からの高大接続改革は、昨年11月に英語民間試験活用延期が決まり、12月には国語・数学の記述式問題導入の見送りが公表された。大学入学共通テストになっても現行のセンター試験と大きくは変わらないことがわかり、不安感が軽減された生徒も多かっただろう。しかし、センター試験の出願期間はすでに終わっており、10月時点で国公立大志望から私立大シフトした生徒が、今更志望を戻せるわけでもない。**現役進学にこだわり、難化が続く一般入試を避け、秋までに推薦入試やAO入試といった一般入試以外の選択肢を選んだ生徒も少なくない。**

「浪人したら不利」ではなくなったことから、センター試験の平均点が上がれば国公立大2次試験の出願で「超安全志向」に歯止めがかかる可能性が出てきた「浪人したくない」と言う理由で大学を選ぶのではなく、「**本当に行きたい大学**」をあきらめないことが大切だ。

(センター試験後)

私立大センター試験利用入試は志願者減 安全志向強く、難関大学への出願が消極的

国語、英語、数学と主要教科の平均点がダウンした。大学入試センターから発表されない5教科7科目の総合点は大手予備校の推定では、文系、理系ともに下がっている。

私立大学のセンター試験利用入試は、センター試験前に出願を締め切る大学が多い。志願者数は現時点で集計中というところがほとんどだ。センター利用入試は併願しやすさから例年人気が高いが、2020年は志願者の減少が目立つ。

首都圏難関大学では、早稲田大学が14%減、青山学院大学は21%減、立教大学(センター3・4。6科目型)は20%減、明治大学は14%減となっている。集計中の中央大学は13%減、法政大学は23%減、東京理科大学は14%減のようだ。

反対に増加した大学をあげると、拓殖大学が58%の大幅増、上位の大学が敬遠される傾向に加え、併願割引制度の手厚さなども増加の一因だろう。その他には、日本大学(C方式)が9%増、東京工科大学(センター前期)が29%増、千葉工業大学(センター前期)が15%増となり、数字の上でも安全志向が見て取れる。

難関大学で志願者が減り、それに次ぐレベルのほとんどの大学で志願者が減少している。来年からの新テストを前に、**2020年入試は安全志向がとて強まった。推薦入試(次年度から「学校選抜型入試」)、AO入試(同「総合型選抜」)、で合格を決めた受験生も多く、一般入試受験者が全体的に減少したようだ。**

まとめ

上記2つの記事から何を読み取りましたか? 「センター試験」から「共通テスト」に変更になると決まった頃から今年の入試は「安全志向」と言われていました。そのうえ、結果も主要教科の平均点が低く、国公立大学への志願者の得点傾向をみると、成績上位層の数が軒並みダウンしています。もちろん八千代生も同様でした。1月29日に「英語外部試験、記述式」を除いた「大学入学共通テストの出題方法等」が発表されましたが、国語は80分と時間を短縮、国語と数学の「記述式問題」に関する記述もなくなっています。だからといって読解力を求める傾向は変わらないと見られています。情報が日々更新されています。常に新しい情報を取り入れられるか否かが「合格のカギ」となりそうです。情報のアップデートをしましょう!